

低くても会心の沢旅

白山前衛 犀川内川東谷～西ノ谷 ～奥獅子吼山直登沢（仮称）

この前に行った山の帰り、石川県出身のメンバーと、金沢市民の心の川「犀川」の源流を辿ろうという話が盛り上がった。もともと冬の白山が好きで通っていた私、久しぶりに地図を広げるとハートに火がついてしまい、本当なら来年の予定だったのを無理やり偵察山行として計画してしまったのだった。（サトリカさん、ごめんなさい）

9月17日（土）：曇りのち雨

夜行バスで金沢駅に降り立つと、一気に旅気分だ。まだ晴れ間が見えているが、この先2日間は台風と前線の影響で北陸地方に大雨の可能性があるため、当初の二又川でなく同じ犀川支流の内川に入ることとした。タクシーに乗ると、市街地の外れから次第に高度を上げていくのがわかる。車がどこまで入れるかわからなかったが、内川ダムの手前で進むことができ、まずは一安心。標高250mほどにあるゲートの先も舗装路が続いていて、奥へと歩きはじめる。少し進んだところで後ろから車が来てビックリ。どうやらこの先の廃村に住んでいた人のようだ。週末だけここに来て畑仕事や家の手入れをしているらしい。立ち話で熊に気をつけるよう言われる。

標高は300mそこそこ、山里のような植生と穏やかな川の流れている。やがて出てきた



二俣は左右からの流れがT字路のようにぶつかって流れており、面白い。この左の沢「東谷」を遡り、右の沢「西ノ谷」を下るのだ。道が次第に細くなってきたところで沢に降りる。河原はあまりなく、ゴロゴロした岩のある流れの周りを草藪が覆っている感じだ。スッキリした滝登りを求める人にはスカの極みと思えるかもしれない。しかし私にとっては、自然そのままの沢を辿って未知の山奥に入っていくのがすごく楽しいのだ。市の中心部からさほど離れていない、ここも金沢市だということに驚く。途中、熊らしき動物が10mほど先の斜面を慌てて登っていった。



穏やかな流れは時計回りに大きく円を描き、次第に高度を上げながら三輪山に続いている。午後になると雨がぱらついてきた。滝らしい滝はないものの、歩きづらく思ったより時間がかかってしまった。途中には山ブドウもあったが先を急ぐ。詰めには要所に赤テープがあり、スムーズに三輪山頂に着くことができた。しかし

【日程】

2016年9月17日（土）
～9月18日（日）

【メンバー】

田村（L）、竹澤、小森

【グレード】 通して2級

【地形図】 鶴来、口直海

【記】 田村

もう 16 時、急いで下りねばならない。少し尾根を辿ってから西ノ谷に降りる。東谷のような溪相を期待したが、こちらはまともな沢だ。2 回ほど懸垂する。そろそろ天場探しを焦り始めたころ、峰さんがいい場所を見つけてくれた。焚火も何とかできて快適な夜を過ごすことができた。

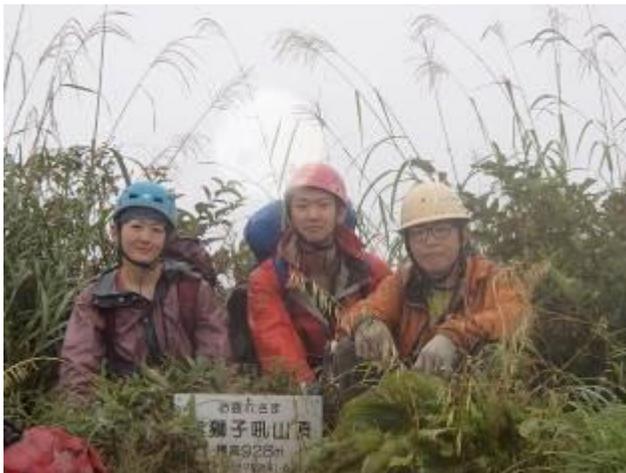
9 月 18 日 (日) 雨

朝はしょっぱなから大きな滝が現れて懸垂する。2 番手の小森君は 1m ほど下りてから何かトラブったようで、登り返してやり直している。まだまだ精進が必要だ。ここで滝場は終わったが、雨が時折強く降るようになり、川が増水してきた。普通なら何でもなく川の中をジャブジャブ行



けるのだろうが、兩岸の藪を漕いではスクラム渡渉を繰り返す。つる草も多く、かなりしんどい。しかし峰さんはムカゴ採りに楽しみを見出していた。一方小森君はスズメバチを刺激して威嚇されていた。

予定よりかなり遅く、12 時半に奥獅子吼山に上がる沢の出合に到着。このまま西ノ谷を下ることも考えたが、初志貫徹でこの沢を遡行することとする。こちら増水はしていたが、小さいので遡行はできる。ゴロゴロした岩に草が付き、その間にいくつもの流れがあるといった感じだ。途中にはまともな滝もあり、非常に楽しめた。最後は灌木の薄い藪で登山道へ。さらに一登りで奥獅子吼山に着くことができた。雨の夕方、当然誰もいない。急いで登山道を下り、暗くなりきる前に何とか鶴来の林業試験場に降りて、無事魅惑の金沢の夜を満喫することができたのだった。



来年こそは倉谷川や二又川へ行くぞ！

【行程】

9/17 内川ダム先ゲート (10:00)
～三輪山 (16:10)～850mCl (17:30)
9/18 Cl (6:00)～奥獅子吼山直登
沢出合 (12:30)～奥獅子吼山
(16:00)～林業試験場 (18:00)

